

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆ 今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	9	3			12
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	3	9			12
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	6	4	2		12
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	5	6	1		12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
申し送りや連絡ノートを活用し、利用開始前に本人・家族が求めるサービスについて把握し、情報を共有している。利用時には、十分な時間をかけ、まず何に困っているかを聴き状況に応じた必要な支援を行い、本人が安心できるようコミュニケーションに心がけている。また、本人や家族の困りごとを受け止め、安全で安心できる環境を作る為、信頼関係が築けるよう努力している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
連絡ノートで情報を把握しているも、本人が慣れていない時の声掛けにおいて、どのような声掛けがいいのか戸惑い声掛けするまでに至らない事がある。経験年数にもよるが、新規利用者に対する初期段階での苦手意識があり上手くコミュニケーションがとれない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
ベテランと新人スタッフと連携を更に密にし、経験を通してながらコミュニケーション能力を学ぶ機会を増やし、利用者や家族が安心できる声掛けの仕方を身につけていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	4	8			12
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	6	5	1		12
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	4	7	1		12
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	2	7	3		12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
本人の目標に向けた現状をとらえ、当面の目標を理解し、日常の関わりの中から本人のしたいことを実現できるよう、家族と協働しながら支援している。また、意思を上手く伝えられない利用者も表情や態度から何を求めているのか汲み取り、自己実現できるよう努力している。その関わりを通じ、モニタリング等を行い繰り返し検討し本人が満足できるような対応に努めている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
意思表示が難しい利用者に対して、支援方法が自分なりになってしまい、本人の「～したい」思いに気づけず不安を招き混乱させてしまうことがある。声にならない声に気づくよう心がけているも、本人自体に捉われすぎてしまい、その背景にある環境等の原因に気づかず混乱に至った。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
自らの意思を表現しにくい利用者の、声にならない声に気づき代弁していくことで自己実現が尊重できると考える。表情や態度のみに捉われず、その背景にある要因に目を向け支援していく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
3. 日常生活の支援	メンバー	大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取り組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?	3	6	2	1	12
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	9	3			12
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	6	6			12
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	8	2	2		12
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	10		2		12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
日常会話の中から以前の暮らしを把握し、その後のその人が必要である支援に繋げられるよう努力している。食事は嚥下状態を考えた形状で提供し、排泄もその人に合わせた声掛けで自立排泄に力を入れている。また、自分でできる事は本人が行うよう促し、その人らしい暮らしができるよう自立支援を行っている。体調不調時には即応できるよう、毎日バイタル測定を行い記録し、全スタッフが情報を共有し必要に応じ受診等を行い対応している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
「以前の暮らし方」は家族からの情報や本人の話しから把握しているも、10 個以上把握できていない利用者もいる。自立度が高いと以前の暮らし方を多くを把握していなくても日常生活に支障が殆どみられず、多くの情報を収集しない傾向にある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
全ての利用者において、以前の暮らし方を「通い」「訪問」「宿泊」サービスを通し多くの情報を把握し、その人が持っている能力を活かし、本人のこれまでの暮らしを継続的に支えていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取り組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	5	6		1	12
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	4	7	1		12
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	2	5	4	1	12
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	5	5	2		12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
アセスメント時に生活歴や家族関係、本人のこれまでの役割や生きがいを把握し暮らしを理解している。また、本人と家族や地域との関係が続くよう必要な関わりを支援している。直接接していない時間においても会話の中から生活状況を把握し、地域での暮らしが継続できるよう民生委員や地域資源を把握し活用できるよう支援している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
本人に直接接していない時間、どのように過ごしているかある程度は把握しているが、全ての利用者までの把握には至っていない。生活歴等の情報はあっても、サービス時間外においての情報は乏しく日常会話の中での把握となっている為、スタッフの共有がまばらになり把握できていない部分がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
利用時間外の生活も把握し、どのように本人が地域や家族と関わり暮らしているのかを知る。その情報を全スタッフで共有しその人らしい暮らしができるよう支えていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	6	6			12
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	10	2			12
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	9	3	1		12
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	5	6			12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
支え合う関係が一方通行ではなく「支える・支えられる」関係を目指し、ふれあいゴミ収集や配食サービス等、本人の生活スタイルに合わせ地域資源を活用している。日々変化する状況に応じ、必要と思われるサービス内容を一人ひとりに合わせ、急遽宿泊で対応したりニーズに基づき柔軟に対応し本人の暮らしを支援している。また、その時本人が必要とする事に耳を傾け適切に対応できるよう努力している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
日々の関わりの中で、体調の変化はすぐ気づき対応できるシステムが定着している。また、気持ちの変化に気づく事は多いも、悪い面に気づく事が多く良い面での気づきが少ない。悪い面は改善策が即とられる体制があり情報が共有できるが、良い面は大きく対応を変える必要が無いいため口頭での伝達となり全スタッフに情報がいきわたらないことがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
気持ち面での変化に、良い面・悪い面双方からの気づきはどちらも記録し全スタッフが情報を共有できる体制を整える。良い面は更にレベルアップが図れるよう現状に満足する事のない支援をしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
6. 連携・協働	メンバー	大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	4	8			12
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	5	2	1	4	12
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	6	4	1	1	12
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	6	4	2		12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
福祉用具等の他事業所と会議を行い、必要な支援が受けられるよう繋げている。運営推進会議を 2 カ月に 1 回行い、地域ケアプラザの会議にも介護支援専門員が参加し連携を図り情報を共有しサービスの質の向上に努めている。また、消防訓練、展望台見学、近隣施設のイベントに参加できている。事業所においては、獅子舞・音楽会・フラダンス等地域ボランティアの訪問があり、催し物を開催して下さり地域との交流を図っている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
自治会や地域ケアプラザの会議には、管理者やケアマネジャーが事業所の代表として出席しているため他職員の参加は殆ど無いが、内容は把握できるよう情報を共有し連携がとれている。地域との交流もありイベントが定例化されているも、外出先においては同じパターンになってきている。現状に満足している傾向があり、更に関わりを拡げるところまで意識が高まっていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
戸塚区での催しものは積極的に参加し外出する機会は多く設けている。決まった場所だけでなく、他の場所に外出する機会を企画し、地域との関わりの幅を拡げ本人の生活を支えていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
7. 運営	メンバー	大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか?	4	5	3		12
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	5	7			12
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	6	1	1	12
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	3	6	3		12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
どのような事業所が良いのか考え、意見を言える環境作りに努力している。家族、介護者の声は真摯に受け止めスタッフ皆で考え、運営に反映している。民生委員や地域ケアプラザ等、地域の方からも運営推進会議にて要望を伺い関係性を築きながら、質の向上を目的に随時見直しを行い、互いの困難事例等を話し合い協働しながら必要に応じた支援に繋がられるよう努めている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
事業所のあり方について、自分の意見を積極的に言うまでに至らない。勤務日数が少なく、一日の業務に精一杯となってしまう、事業所全体についてまで考えが及ばない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
日常業務にばかり追われないよう、スタッフ一人ひとりの役割を明確にし、チームでケアにあたる。それにより、余裕がもて全体がみえるようになり自分の意見が言えるようになることを目指す。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ～ 15 : 30)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	8	2	2		12
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	4	3	3	2	12
③	地域連絡会に参加していますか	2	2	2	6	12
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	4	7		1	12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
内部研修は定期的に行い、外部研修は自主性を重んじ強要はしていないが参加できる体制にある。介護福祉士の資格や感染症予防対策の研修等に参加しスキルアップに努め、事業所全体の質の向上に繋がられるよう努力している。連絡会 (横浜市小規模多機能連絡会) には管理者等が参加し情報を共有し実践に役立てている。また、ヒヤリハットを習慣化し再発防止に取り組み、事故予防のためのリスクマネジメントに意識的に取り組んでいる。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
外部研修に参加する機会がなかなか持てない。子育て中のスタッフが多く、長時間・長期間の研修の参加が難しく短期研修の参加に限られている。ゆくゆくは、法人内主催の研修に参加し資格取得を希望している。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
事業所内研修は引き続き学ぶ機会を確保し、資格取得に向け準備をしていく。また、法人内研修や外部研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に繋がられるよう努力する。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
9. 人権・プライバシー	メンバー	大嶋・杉江・西野・千葉・浅利・森谷・斉藤・古郡・吉田・小澤・佐藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	人	人	人	人

前回の改善計画	
前回の改善計画に対する取組み結果	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	12				12
②	虐待は行われていない	12				12
③	プライバシーが守られている	9	3			12
④	必要な方に成年後見制度を活用している	12				12
⑤	適正な個人情報の管理ができています	11	1			12

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
身体拘束の意義を理解し身体拘束に繋がりそうな原因を排除し身体拘束はしていない。身体拘束が必要な際は家族と十分検討の上、一時性・非代替性・切迫性を理解し記録のもと行うものと理解している。また、虐待は言葉の暴力も含めしていない。排泄面においては、本人に配慮した声掛けでプライバシーが守れるよう努力している。成年後見制度は必要な利用者が活用でき、個人情報も正しく慎重に取り扱われるよう管理している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
トイレ誘導時には、本人のプライバシーを守る為、基本「トイレ」の言葉を出さず誘導している。しかし、耳が遠く「トイレ」の言葉で理解できる人に対して、トイレ誘導時の声掛けが大きくなってしまふ。一人ひとり理解力も違い個別対応しているがプライバシーの面では難しさがある。声掛け方法を探っていかなければいけない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
トイレ誘導時の声掛けの仕方についてプライバシー確保の面から探る。本人が理解でき、且つプライバシーが守られる対応方法はないのか？探りながら検討し、プライバシーが守れるよう支援していく。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 リラ福祉サービス	代表者	馬場 世津
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所こすずめの里	管理者	大嶋 芽美
法人・事業所の特徴			

住み慣れた地域での生活が継続できるよう、柔軟な対応で一人ひとりの暮らしを支援しています。地域行事への参加や、ボランティアの訪問により音楽会や獅子舞等を定期的に開催し地域住民との交流を図り、本人の暮らしを支援しています。
法人は有限会社リラ福祉サービスの経営で、グループホーム、有料老人ホーム、デイサービス、サービス付き高齢者住宅、居宅介護支援、訪問介護等々多岐にわたり法人理念に基づいた施設運営を行っています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	人	1人	1人	人	2人	3人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			経験や年齢が異なる職員が自己評価を行い、話し合いにより課題を見出している。 経験や理解の違いで評価結果にばらつきがでることが理解できた。	全ての常勤職員と数名のパート職員で自己評価に取り組み始める。更に多くの職員で取り組めるよう自己評価期間を長く設け、多くの参加で話し合いができる体制を整える。
B. 事業所のしつらえ・環境			環境的に特に問題は無い。 日中、玄関に鍵がかかっている事はない。 事は確認できるが、その意図は解らない。	身体拘束の面より日中玄関は施錠せず職員による見守りで対応している。衛生面を維持し、玄関の施錠を含め居心地の良い環境作りを継続していく。
C. 事業所と地域のかかわり			近所の方より相談があった際に対応が早く、相談者からも喜ばれた。 今後も、地域と事業所が助け合い協働していくことを望む。	地域行事に積極的に参加し、地域との関わりを継続していく。また、困りごとに柔軟に対応できるよう地域住民や地域包括と連携し協働していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み			地域行事の参加や、外出する機会が多くて良い。 地域包括からの相談、近隣住民による相談や訪問もあり、今後も継続してほしい。	限定されたイベントだけでなく他地域へ出かける企画をたて交流の幅を広げる。地域住民からの相談も随時対応し関わりを継続していく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み			地域の心配ごとについて話し合う機会が多くもっている。 情報交換ができる場でもあり、今後も地域の連携を図る必要がある。	会議での話し合いを通じ、事業所と地域の双方からの連携で多くの情報を共有し、サービスの質の向上に繋げていく。

F. 事業所の 防災・災害対策				防災点検方法を確認する事ができた。 定期的に防災訓練が行われ、また地域の防災訓練への参加もあり良い。	防災訓練を定期的に継続し、緊急時の対応方法を全職員が身につけていく。また、運営推進会議で防災訓練を行い、事業所の防災訓練の質を高める。
--------------------	--	--	--	---	---

収受番号: 730

評価結果提出届 (兼受理書)

(小規模多機能型居宅介護)

健康福祉局介護事業指導課 あて

(太枠内のみ記入してください。)

提出日: 平成 28 年 3 月 10 日

届出者	サービス種別 (該当に○)	○ 小規模多機能型居宅介護					○ 介護予防小規模多機能型居宅介護				
	事業所番号	1	4	9	1	0	0	0	2	8	5
	事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 こすすめの里									
	事業所所在地	(〒245-0063) 横浜市戸塚区原宿 2-6-7									
	担当者名	大山島 芽美									
	連絡先	電話	045-858-3322				FAX	045-858-3322			

次のとおり、資料を添えて提出します。

運営推進会議開催日			平成 28 年 2 月 24 日		
添付書類 (チェック欄にレ)	チ エ ッ ク 欄	✓	事業所自己評価		
		✓	サービス評価総括表		
		✓	返信用封筒 (82 円切手を貼った返信先明記の長 3 封筒)		

(以下は記入しないでください。)

評価結果提出届を受理しました。

受理日	平成 28 年 3 月 11 日	実施年度	27 年度
次回実施期限	平成 29 年 3 月 31 日		

< 次回の外部評価実施後、運営推進介護を開催した日から 1 か月以内に提出をしてください。 >

< この受理書は再発行しません。 >

【発行】 横浜市健康福祉局介護事業指導課 電話 045-671-3466 FAX045-681-7789

受付担当者:

塩田

